

沿革 | 水田農業研究所

大正 9年	現在地に山形県立農事試験場庄内分場として創立
昭和 2年	いもち病防除指定試験開始（～昭和20年）
昭和16年	修練生養成事業開始（～昭和46年）。第1次育種事業開始
昭和22年	ごまはがれ病防除指定試験開始（～昭和36年）
昭和23年	田畑輪換指定試験開始（～昭和36年）
昭和25年	山形県立農業試験場庄内分場と改称
昭和27年	水稻研究係、経営研究係を設置し2係制となる
昭和31年	経営研究係が水稻研究係に統合し、病害虫研究係を設置
昭和37年	農機具研究係設置（昭和40年、農業機械研究係と改称）
昭和38年	庶務係設置。統合実験農場に関する研究（～昭和42年）
昭和39年	育種研究係を設置し5係体制となる
昭和47年	大規模営農実験農場に関する研究（～昭和51年）
昭和49年	庄内分場を庄内支場と改称
昭和52年	あさあけ（庄内20号）奨励品種に編入（初育成品種）
昭和57年	総務課、作物部、育種部、環境部を設置し、1課3部体制となる 尾花沢試験地の育種業務を引継ぎ、育成系統名を「山形」番号とする
昭和60年	現本館及び付属棟完成。バイテク（薬培養等）による品種開発開始
平成 元年	育種部をバイオ育種部と改称。銘柄水稻品種開発事業開始（～平成5年）
平成12年	バイオ育種部を水稻品種開発部と改称
平成13年	作物部と環境部を統合し、水田技術研究部とし、1課2部体制となる
平成17年	研究機関組織再編により山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場庄内支場となり、総務課、水稻研究科の体制となる
平成21年	山形県農業総合研究センター水田農業試験場と改称
平成23年	水稻研究科を水稻部と改称
平成24年	世代促進温室の改修と、換地による圃場造成
平成30年	高温耐性検定施設及び耐冷性検定施設の整備
令和 2年	山形県農業総合研究センター水田農業研究所と改称

これまでの育成水稻品種一覧（育成順（ ）内は育成年）

あさあけ(1977)、はなの舞(1988)、みちのくわせ(1988)、雪化粧(1992)、どまんなか(1992)、はえぬき(1992)、出羽燦々(1995)、里のうた(1999)、山形59号(2002)、ゆめさやか(2000)、出羽の里(2005)、里のゆき(2005)、こゆきもち(2006)、つや姫(2009)、出羽きらり(2012)、山形95号(2013)、山形糯110号(2013)、雪女神(2015)、山形糯98号(2016)、山形119号(2016)、雪若丸(2017)、山形糯128号(2018)、山形飼糯138号(2021)、ゆきまんてん(2025)